

た現会員は半数に過ぎません。これらの人が入会してから退会するまでに一体何が起きているのでしょうか？

2019年7月から2020年3月までの地区内の入会・退会の状況ですが、入会が149人、退会が140人でした。この結果から会員増強を頑張ってやって成果を出したとしても、同じくらいの同志が退会しているということなのです。

なぜ退会するのか、元会員の30%が退会の理由として、費用と時間の負担を上げています。昨年度のRI会長のマローニ氏は、ロータリアンの仕事は忙しい職業人には重すぎる時間のコミットメントであると思われるべきではありません。すなわち、ロータリーがもっとも必要とする人たちが、奉仕とリーダーシップを十数年に渡って発揮できる、潜在性のある人たちに活躍への扉を閉ざしてしまうこととなります。退会の理由としてクラブの環境と期待に沿わなかった事をあげる人がいます。期待して入会してみたが、いざ入会すると、約束されていた体験が出来なかったと感じる新会員がいます。会員や地域社会のニーズに答えるために柔軟な対応をする必要があります。クラブは会員の期待や要望に合うように、運営方法や構造を変える柔軟性を取り入れることができます。すべての人の要望に応えられるクラブ作りは可能なのです。

ロータリーとはクラブに入会するというだけでなく、「無限の機会への招待」であるとホルガー・クナーRI会長は述べました。未来の為の変革として、会員数を増やすために数字にこだわるのではなく、持続可能かつ有機的な形で成長できる方法を考えるよう求め、現会員を維持し、クラブに相応しい新会員を募ることをクラブが注力すべきであると伝えています。

会員増強維持のポイントは、各クラブが魅力あるものとし、会員基盤向上のために、会員同士の親睦と交流をより深め、その親睦の和をさらに拡げてゆく為に、新たな会員を募ることが必要であります。

以上が地区の会員増強委員長からのメッセージです。

## ロータリー財団委員会報告

ロータリー財団委員長 伊東哲夫君

### 1.ロータリー財団の外郭団体

正式名称「公益財団法人  
ロータリー日本財団」

### 2.歴史 1917年アーチCクランPRI会長の提案により基金の設置提案

1983年 財団法人となる

(意図) ロータリーは奉仕する団体 奉仕活動には資金が必要

### 3.使命 ロータリアンが、寄付による基金を財源として、世界の健康状態を改善し、教育の支援、貧困の救済を通じて、世界理解、親善、平和を達成



できるようにする。

- 4.資金 使命達成のために資金必要 主な財源  
①会員からの年次基金、恒久基金への寄付、遺贈  
②クレジットカードからの定額寄付(0.3%)
- 5.使途 6つの重点分野への使途を指定して寄付可能  
i 平和と紛争予防 ii 疾病予防と治療  
iii 水と衛生 iv 母子の健康  
v 教育・識字率向上  
vi 経済と地域社会への発展
- 6.財務 2019年度  
(世界)収入 \$3億6051万6000  
(内寄付\$3億2190万1000)  
支出 \$3億3520万5000  
(内プログラム補助金\$2億8109万1000)  
(日本)寄付総額 約13万件 19億6694万2898円  
(内個人寄付15億8049万442円)  
※日本財団は、国際ロータリーの財団に15億2900万円を寄付  
※2018年の統計では、国際ロータリーの財団は8667万7399ドルを上記6つの重点事業へ補助金を授与している

## 米山記念奨学委員会報告

米山委員長 大貫隆弘君

- 米山記念奨学金とは、ロータリー会員の奉仕活動として日本だけの奨学事業であり、1952年に東京ロータリークラブ(古沢丈作会長)で事業構想され、ロータリークラブの共同事業として全国に広まりました。
- 米山記念奨学金の特徴は、日本全国のロータリークラブの会員の寄付を財源としており、国内民間留学生奨学団体としては最大の事業規模。
- 米山奨学金は、学士課程の3年生4年生 月額10万円、修士-博士課程の1年生から3年生 月額14万円となり、返済不要。
- クラブ米山委員会の役割は、①米山記念奨学会への寄付増進を図ること、②米山奨学生と世話クラブを募集すること、③奨学生・OBの学友会 地区米山委員によるPR活動に努めること。
- 2620地区の個人平均の寄付実績は14,631円で、全国16位であり、全国平均の15,828円より下回っており、今年度は全国平均を上回るため、一人当たり16,000円を目指して活動していきます。
- 奨学生は、「勉学への意欲、人物面・学業面が優秀、将来日本との懸け橋になりうる人材」という観点で選考。

